

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者様の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけではなく、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 岸 清 石塚 寛 扁 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	総論を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	骨の役割と骨の連結			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	脊柱の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	脊柱の名称と関節名称			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	上肢帯の名称と関節名称			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	上肢帯の名称と関節名称			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになるようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由上肢骨の名称と関節名称		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢骨まとめ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢帯の名称と関節名称		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	自由下肢骨の名称と関節名称		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	下肢骨まとめ		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者様の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけではなく、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 岸 清 石塚 寛 扁 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりとしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			
第 17 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			
第 18 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			
第 19 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	頭蓋骨の役割を理解出来るようになる	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	頭蓋骨の名称と関節名称			
第 20 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	骨学まとめ	上記教科書		
		各コマに おける 授業予定	骨学口頭試問とまとめ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学総論を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	起始・停止の概念、筋の補助装置を理解する		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	表情筋・咀嚼筋を覚える		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	表情筋・咀嚼筋を覚える		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅胸筋・横隔膜・腹部の筋を覚える		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	背部の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	浅背筋・固有背筋を覚える		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・前腕屈筋群を覚える		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋・前腕屈筋群を覚える		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる		
		各コマにおける授業予定	前腕屈筋群・手掌の筋を覚える		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	
担 当 教 員	平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》 柔道整復師として医療に携わるに当たり、解剖学の知識の習得は欠かす事の出来ないものである。適切な施術をするのに、人体の場所を理解出来ていないようでは患者様の信頼を得ることは出来ない。そのため骨・筋の理解を中心として授業を展開していく。骨は部分の名称だけでは無く、靭帯、関節の運動までの理解を目指し、筋は教科書に出てくる筋の起始・停止の暗記を目指していく。						
《成績評価の方法と基準》 期末試験で成績の全てを判定する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 改訂第2版 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 岸 清 石塚 寛 扁 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》 各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》 復習をしっかりしておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 31 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノート を やっておく。	
		各コマに おける 授業予定	前腕屈筋群・手掌の筋を覚える			
第 32 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる。	上記教科書	解剖学トレーニングノート を やっておく。	
		各コマに おける 授業予定	今まで覚えた筋の起始・停止の口頭試問			
第 33 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の筋を理解出来るようになる。	上記教科書	解剖学トレーニングノート を やっておく。	
		各コマに おける 授業予定	今まで覚えた筋の起始・停止の口頭試問			
第 34 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノート を やっておく。	
		各コマに おける 授業予定	外・内寛骨筋を覚える。			
第 35 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノート を やっておく。	
		各コマに おける 授業予定	外・内寛骨筋を覚える。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	大腿内転筋群・大腿屈筋群・大腿伸筋群を覚える		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	大腿内転筋群・大腿屈筋群・大腿伸筋群を覚える		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	下肢屈筋群・伸筋群を覚える		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	下肢屈筋群・伸筋群を覚える		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	足底・足背の筋を覚える		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の筋を理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	足底・足背の筋を覚える		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	全ての筋が理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	口頭試問と筋の確認		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	全ての筋が理解出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	口頭試問と筋の確認		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨学・筋学の復習が出来るようになる	上記教科書	解剖学トレーニングノートをやっておく。
		各コマにおける授業予定	テストに向けて、全ての骨学と筋学の総復習をする。		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	総まとめ		
		各コマにおける授業予定	テストを実施し、今までの知識の定着を確認する。		